



■日常の生活場面で「なるほど♥」と思うような、便利な日用品や人に優しく配慮されていると感じる施設を目にする機会が増えています。例えば、ノンステップバス、多目的トイレ<sup>♿</sup>、駅構内のアナウンスや表示、使用中に蓋を開けると動きが止まる洗濯機、人の気配を感知して点灯する照明など。

■これらは、ユニバーサルデザイン (UD) の視点から設計されたもので、年齢、性別、人種、障がいの有無などに関係なく、多くの人々が快適に利用できるよう配慮されています。ユニバーサルデザイン (UD) は「誰でも同じように使える」「使う人が選んで使える」「使い方が簡単」「情報がすぐにわかる」「安全」「体への負担が少ない」「使いやすい空間」といった考え方を大切にしています。

■さて、本コラム「ウェルビーイングな日々 no13」から、字体が変わったことに気づいていただけただけでしょうか？「UD デジタル教科書体」を使用しました。この字体は、学校教育におけるユニバーサルデザイン推進の一環として、2020年度から教科書の文字として使われ始めました。従来の教科書体は、毛筆の楷書体を基本に「とめ・はらい」がはっきりしているという特徴がありました。

■子どもたちの中には、文字の形状が気になる、白い紙がまぶしい、先の尖ったものが怖い、ボールペンのノック音に過敏に反応する、黒板の字が見えにくいなどといった感じ方をする子どもがいます。こうした意見をもとに、薄い色の紙のノート・安全カバー付きハサミ・ノック音を低減したボールペン・鮮明で見やすい文字が書けるチョークなどの文具が開発・販売されています。これらの製品は、特定の子どもだけではなく、全ての子どもたちにとっても使いやすいでしょう。

■「みんな同じ」という平等の視点も大切ですが、子どもたちが楽しく学び、能力を最大限に発揮するためには、個々の実態やニーズに合わせた環境整備が求められます。ユニバーサルデザイン (UD) の視点を活かして誰もが快適で安心して過ごせる環境づくりがさらに進むことを期待したいですね。

